

学校名		小城市立砥川小学校		
1 前年度 評価結果の概要		昨年度は、全体成果指標「学校が楽しい」と思う児童80%以上に対して、4段階評価で肯定的な回答をした児童は、12月88%、1月97%、2月93%、3月93%となり、概ね達成していると考えている。 今年度も『今日が楽しく、明日が待ち遠しく思える学校』を目指し、子どもたちが安心して過ごすと共に、学習面（授業等）や学校生活全般（学校行事等）において主体的に活動し「学校が楽しい」と思えるように、全教課程を通して取り組みを継続していく。		
2 学校教育目標		夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 「勤儉力行」 ～たくましく しなやかに～		
3 本年度の重点目標		『今日が楽しく、明日が待ち遠しく思える学校』※全体成果指標「学校が楽しい」と思う児童85%以上／仕事にやりがい（達成感）を感じる職員85%以上 「一心一徳」「異体同心」で ○ 魅力的で笑顔に満ちた児童を育てる ○ 魅力的で活気に満ちた教職員になる ○ 魅力的で家庭や地域に愛される学校になる		
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
主な担当者				
重点取組				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○校内研究の推進による授業力の向上	○主体性を問うアンケートで肯定的な回答をする児童80%以上	・意欲を育む指導と評価の充実を図る。 ・話し合い活動の工夫や授業のUD化を図る。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○一人1台端末の有効活用	○Googleclassroomを活用した授業を行い、肯定的な回答をする児童80%以上	・ICT機器や情報の活用力をたかめる。 ・一人1台端末を活用した授業や環境を構築する。	・情報化推進リーダー ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、思いやりのある行動や言動ができていると答える児童が85%以上	・道徳教育、人権・同和教育を核としながら、教育活動全体を通して、自分のよさや可能性を認識させるとともに、あらゆる他者を尊重する態度を育てる。	・特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートにおいて、いじめ防止対策等のための取組について組織的な対応ができていると回答した教員80%以上	・定期的な心のアンケートや法によるいじめの定義の職員への徹底を図り、児童が安心・安全な学校生活が送れるようにする。	・生徒指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・出番、役割、承認のサイクルを意識した取り組みを進め、発達支持的生徒指導の浸透を図る。	・特別活動部
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で徒歩での登下校時間を含む運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ②学校評価アンケートにおいて、「早寝・早起きができている」「朝ご飯を食べている」と答える児童が80%以上 ③「健康に良い食事をしている」に肯定的な回答をする児童80%以上	①生活カードに毎日運動をした時間を記録し、運動をすることを動機付ける。 ②家庭と協力し、「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みの徹底を図る。 ③給食センターの栄養教諭や養護教諭と連携し、食の大切さを理解させる指導を行う。	・健康安全部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・行事や会議を効率的で効果的に削減、凝縮し、子どもと向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。 ・定時退勤日を設け、全員が確実に実施する。	・管理職
	○働き方改革の本質の徹底	○働き方改革の意義を理解し、メリハリをつけた業務の遂行ができたという問いに肯定的な回答する職員80%以上	・「ON／OFF」の切り替えができ活気に満ちた状態で働く姿を児童に見せるよう、メリハリをつけた業務遂行を行う魅力ある教員となる。	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実と拡散	○学校評価アンケートにおいて、特別支援に関する専門性が向上したという問いに肯定的な回答をする教員80%以上	・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案により、支援を要する児童への個に応じた対応を徹底する。 ・全職員で全児童を育てるために、児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・職員研修の実施により、インクルーシブ教育の視点で通常学級でも個別の支援を行える教員となる。	・特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
主な担当者				
重点取組				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○地域との連携	○地域との連携による互恵性のある教育活動の創造	○「地域の方と一緒に行う活動は楽しい」に肯定的な回答をする児童80%以上。 ○「地域の教育的資源や人材を活用した」に肯定的な回答をする職員80%以上。	・地域連携室との連携により、学校を開き、地域の力を活用して児童が生き生きと学習できる環境を構築する。 ・児童が地域の方に感謝する機会をその都度設け、地域も活性化する方法を探る。	・管理職
○他校との交流	○南九州市立宮脇小学校とのオンライン交流	○砥川の良さや自分たちの活動を発信できたと回答する4年生と6年生の児童80%以上。 ○交流の効果が肯定的な回答をする関係職員80%以上。	・交流地域の歴史や文化、特徴などに関心をもつとともに、ふるさと砥川の良さを発信していくことで、誇りと愛着を深める。	・管理職 ・4年・6年担任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育